

# 「復興に時間が必要」

## 河井衆院議員、マラウイ視察

フィリピンを訪問している河井克行衆院議員(自民)は18日、過激派との戦闘終結か



マラウイ市内の旧戦闘地域を視察する河井克行衆院議員(同議員提供)

ら1年がたったミンダナオ地方マラウイ市を日本の政治家として初めて視察した。河井議員は「日本の支援による道路整備が12月に始まるが、地雷がまだ50以上残っており時間が必要」と述べ、被害の大きさと復興の遅れに理解を示した。

河井議員は国軍やマラウイ復興特別委員会関係者と午前中からマラウイ市を視察、最も被害の大きかったアグス川の東側に位置する旧戦闘地域に入り、ロケット弾により天井に無数の穴の開いたグランドモスクや聖マリア大聖堂などを見学した。

河井議員は日本が支援する予定の道路や下水道整備の終了後には、「破壊され

た学校の再建を目指したい」と話した。また、マラウイ市の景色について、「ラナオ湖に面した緑あふれる楽園のような街が死

の街に変わり、イスラム過激派に強い憤りを覚えた」という。避難所などは視察しなかった。日本政府はこれまで日本製重機27台など、約20億円の無償資金協力を表明している。

マラウイ市の戦闘では、国軍兵士と警察官計165人が死亡、マウテ・グループなどのイスラム過激派は974人が死亡した。(森永亨)